

毎小こども記者 自動車リサイクルの秘密を探る! ②解体編

1年に約300万台もの車が使用済みになる自動車大国・日本。使い終わった車を資源に戻すにはどうしたらいいの……そこには一つ、大きな課題がありました。「エアバッグ」とカーエアコン用の「フロンガス」の処理です。毎日小学生新聞のこども記者と一緒にリサイクル大国・日本の秘密を探る旅の第2回は、その処理と車の解体の現場に足を運びます。



きょうの現場

恐竜の顔? 無駄なく分別

大型機械が車をひよいと持ち上げました。ショベルの先を見て「恐竜の顔みたい」と山田記者はくちばしをのぞきました。エンジンは別の工場に運んで利用します。最後に鉄をまとめて処理する前に、ここでは銅など非鉄金属を分別します。使える素材は無駄なく使うためです。姫野記者が車一台の作業にかかる時間を大山社長に質問しました。車の大ききにもよりますが15分くらい。あっとい間に潰れていく車に「軟らかいものみたい」と記者たちは口々に話しました。

大きな機械で小さな部品も

次回のは 破碎の現場を訪ねます。



大山商事前で、(左から) 姫野美愉子記者、池辺直哉記者、山田龍太記者。後列左から、藤野啓也営業部長、大山芳三社長

温暖化も防止

ガス逃さない大事な一手間

「いらっしやい」。なんと、社長の大山芳三さんが出迎えてくれました。大山商事は、リサイクルのため使用済みの自動車をばらばらにし、小さく碎く作業などを行う会社で、1日約200

シリーズ2回目は、大分県に住む5年生の姫野美愉子記者、4年生の池辺直哉記者、3年生の山田龍太記者と一緒に、大分市にある自動車リサイクル会社「大山商事」をたずねました。

「車の車を処理しています。解体中に爆発や火災の原因になるオイル類、エアバッグなどは事前に手作業で処理します。またフロンガスも手作業で除きます。」

「エアバッグって?」
交通事故の衝撃から命を守る。衝撃を受けると布のふくらみがクッションのように広がり、人を守ります。爆発するガスの発生剤が使われており、安全に注意して処理する必要があります。

「フロンガスって?」
車のエアコンを動かす。フロンガスは人工的に作られたガスで、エアコンを冷やすために使われました。二酸化炭素(CO2)の千数百倍の温室効果があるほか、一部のフロンガスは地球の生き物を紫外線から守っている空気の層(オゾン層)を破壊してしまします。

クイズ Q

解体するときにエアバッグを膨らませるのは中のガスを再利用するため? ○か×か

正解: ×

解体スタート

抜き取り① オイル

使用済みの自動車が、大山商事に運ばれてきました。

作業中の火災を予防

車の下からタンクに穴を開け、オイルやガソリンを抜き取ります。池辺記者は「ガソリンスタンドみたいなにおいがする」とびくびくした様子。火災を起さないうちで最後のひとすくまでいねいに落とします。集めたオイル類はセメント工場の燃料になります。

抜き取り② フロン

ガスは漏らさずボンベに

ボンネットの中をのぞき込んだ池辺記者が「方位磁石みたい」。まさに方位磁石のように見える計器がついたホースを使い、フロンガスをボンベに取り込みます。この後、自動車メーカーが高温で焼却して無害にします。

エアバッグ

「ボンッ!」
膨らませて処理

電線をつなぎ離れたところからバッテリーで電気信号を送ります。「ボンッ!」。「瞬間でエアバッグが膨らみ、驚く記者たち。「白い煙が見えますが、体に害はありません」と大山社長。膨らんだ布は焼却処分します。

毎小こども記者の自

こたえ

こたえは×。エアバッグを破壊するのは、その後の作業中に爆発するのを防ぐためです

山田龍太 記者 (小3)

池辺直哉 記者 (小4)

姫野美愉子 記者 (小5)

「自動車リサイクル」を学べる動画が見られるよ! <http://www.jarc.or.jp/>